

柳瀬川式幻想風景

031 千葉日本大学第一中学・高等学校 鉄道部

ある春の季節の日、うっかり寝過ごした私はこの駅に降り立っていた。
「柳瀬川駅ってどこだ…。」
ここは桜の名所らしく、私は友人との待ち合わせまで小一時間あるので、
見に行くことにした。
しかし駅を出てみると桜はどこにもなかった。
調べてみると桜は川の土手沿いに生えているらしく、
駅を出て階段を昇るとすぐに
辺り一面に並ぶ桜が私の視界に飛び込んで来る。
何ら普通のものとは変わりない桜の木で、
普段なら視線を下に向けていて気にも留めないものが
今日は光のようなモノをまとっているようにも見える。
川の堤を歩くと心地よい風が全身に当たり、満開に咲いた桜の花が
斑雪のように降り注ぎ、淡いピンク色の花道を作り上げる。
すっかりこの場所の虜になり、
ただじっとその感動を体で感じ続けていた。
ヴーッヴーッ
しかしそこでズボンのポケットの中でバイブ音が鳴り響く。
「…しまった！」
約束の時間はとうに過ぎていた。



旅する人
江戸川乱歩賞
2026 出展作品